



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

私立大学図書館協会
研究大会 2011年9月2日

学術情報基盤の要としての 大学図書館の整備について —大学図書館と大学との協働体制—

お茶の水女子大学長
羽入 佐和子

- 
- I 大学図書館の整備について（審議のまとめ）
—変革する大学にあって求められている大学図書館像—
 - II 図書館機能の再考
 - III 大学にとっての大学図書館
 - IV 社会の中にある大学と大学図書館
 - V 具体的事例
 - 1) 九州大学
 - 2) お茶の水女子大学

I - 1) 審議のまとめに至る背景

①大学図書館の教育機能への支援と学生の変化

- ・ラーニング・コモンズ、e-Learning、e-ポートフォリオなどの導入
- ・インターネットや携帯電話が当然となっている世代の入学
- ・高等学校における「情報」科目の必修履修

②大学の研究機能に対する社会の要請・期待

- ・大学が産出する学術資料を蓄積・公表するための機関リポジトリ
- ・学術成果物の電子的管理と教員業績データベース等の連携

③高等教育と学術研究における電子情報資源の導入、管理、提供に関する対応

- ・「電子ジャーナル」の確保と利用促進

平成22年12月

大学図書館の整備について（審議のまとめ）

－変革する大学にあって求められる大学図書館像－

I - 2) 方向性

- **新たな存在意義を担う。**
- **大学の存在意義、学術基盤の在り方を方向づける。
多様化、多機能化、高度化**
- **対応**
 - 人材育成**
 - 経済的基盤の確保**
 - 業務の見直し**

図書館の基本的機能に変化はないのではないか。
ただし、大学には、教育、研究、社会貢献、産学連携などの多機能性が求められてきている。

この大学への期待が先鋭化した形で、大学図書館の役割がクローズアップされ、それに伴って、図書館には多様な役割が期待され、図書館職員には多元的能力が必要になる。

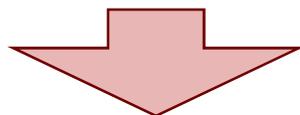
大学図書館の基本的機能

5

学生の学習や大学が行う高等教育及び
学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤

(基本的機能)

- ・大学の教育研究に関わる学術情報の体系的な収集、蓄積、提供を行うことにより、教育研究に対する支援機能を担う。
- ・大学図書館に蓄積された学術情報を、検索可能な形態で公開することにより社会全体の共有財産として、学術情報基盤を構築する。



基本的機能の重要性は変わるものではないが、
現在の大学及び大学図書館を巡る大きな環境変化の中で、
大学図書館は多様な課題に直面

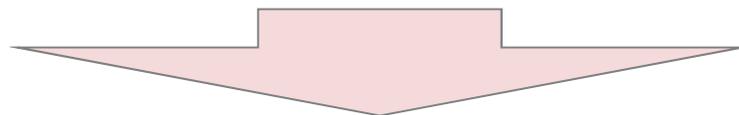
大学図書館職員の業務内容の変化

◆伝統的な業務

- ①資料収集・提供関連業務（資料の収集・組織化（目録作成等）・蓄積・提供）
- ②利用者サービス業務（貸出、レファレンス、相互貸借（ILL）、情報リテラシー教育（利用案内、文献検索指導））
- ③その他業務（ホームページの管理業務、館内の整備、図書館システムの管理）

◆学術情報を駆使して学習・教育・研究に、より積極的に関与する専門家としての業務

- ①カリキュラムと直結した資料整備
- ②情報リテラシー教育への直接的関与
- ③研究に直結するレファレンス
- ④大学の研究成果の集積と発信
- ⑤学生・教員の間（研究者間）の学問的交流の場を大学図書館として提供するラーニング・コモンズの運用



従来の事務職員とは異なる職種と位置付け、大学内の様々な情報管理業務に関与していくべき。

Ⅱ 図書館機能の再考

※大学図書館の基本的機能を保持しながら、環境の質的変化や課題の多様化に対応することが課題となる。

環境の質的変化

資料のIT化（デジタル化）

課題の多様化

教育への関与の必要性が拡大

学生の多様化

研究領域の多様化と研究の急速展開



図書館職員の育成と確保：cf. 九州大学の事例

運営基盤の確保：

- 大学の管理運営関係者には、その実現のために大学図書館の安定的な運営の確保に配慮していくことが必要。

Ⅲ 大学にとっての大学図書館

※大学を取り巻く状況が変化する中で、大学図書館、図書館職員にとっても、大学にとっても相互の協働関係が重要である。

- 大学の状況の変化
 - 財政状況
 - 大学の個性化
 - 産学連携、社会貢献の重要性
- 大学の中の図書館という意識が重要
 - ⇒ 大学との協働体制

大学との協働：お茶の水女子大学の事例

1) 大学の戦略との密接な連携 ⇒ **大学の競争的資金獲得への対応**

☆「21世紀型リベラルアーツの創成」 → リベラルアーツ仕様の図書館

- ・情報教育
- ・テーマ志向型授業科目の設定

☆大学院改革支援プログラム

「日本文化の国際的情報伝達スキルの育成」（平成19～21年度）

→ 日本学研究コーパスの構築 soil; Subject Oriented Index Library

☆特別研究経費「女性が進出できる新しい研究分野の開拓」（平成19～21年度）

→ 先駆的女性研究者のDB作成

☆現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム

→ キャリアカフェ開設

☆科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業

「挑戦する研究力と組織力をもった若手育成」（平成19～23年度）

→ 研究環境の整備；電子ジャーナル、DB

2) 大学職員としての意識啓発 → 後述

☆理念の作成 職員の意識改革の契機

3) 大学図書館として多機能空間の創出 → 後述

☆図書館改修

IV 社会の中にある大学と大学図書館

※ 社会的存在としての大学の意義が重視されるのに伴い、大学との協働関係にある大学図書館も社会的役割に対して敏感であることが求められる。

- 大学の社会貢献へのinterfaceとしての役割
- 地域との連携
- 国際化への対応
- 教育・研究成果の発信

V 具体的事例

1) 九州大学

大学図書館職員の育成と確保

ライブラリーサイエンス専攻

大学院統合新領域学府に平成23年4月開設

2) お茶の水女子大学

学生との協働、教員との協働、大学との協働によって、空間を活かし充たし、人と智を創造する
大学図書館

1) 大学図書館職員の育成・確保: 九州大学の事例

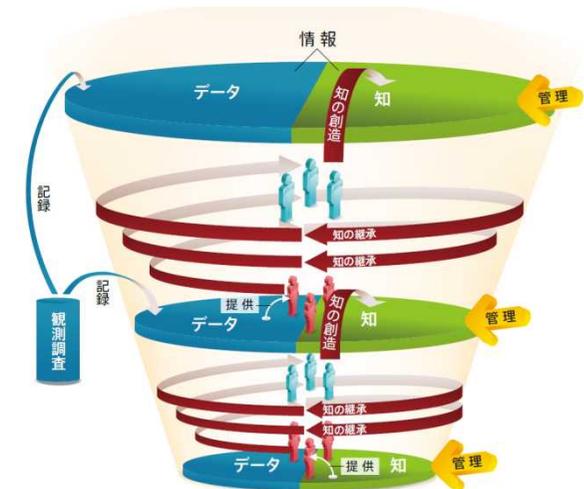
◆大学における養成

大学図書館を巡る状況の変化に応じて、養成すべき大学図書館職員の技能も変化しており、異なる専門性を有する人材をいかに養成していくかが課題。

九大の事例

平成23年4月より、大学院統合新領域学府に**ライブラリーサイエンス専攻**を開設。

ICT環境の真ただ中に置かれる現代情報社会の急速な進展に対応するため、**ユーザーの視点に立った情報の管理と提供を確保し、同時に知の創造と継承を支える新たな「場」**（「ライブラリー」と呼ぶ）に求められる高度な専門人材の養成を目指す。このような専攻の設置は**日本初**。



◆大学図書館の現場における育成

大学図書館の現職職員の育成は、研修会への参加、海外研修の実施などが考えられる。大学の規模等の事情もあることから、大学間における人材の交流など、連携が重要。

◆大学図書館職員のキャリアパス

大学図書館に要求される機能を担う人材を育て、活用するためには、事務系職員とは異なった枠組みを考えることが必要。

2) お茶の水女子大学の事例

① 大学職員としての意識啓発

☆理念の作成 職員の意識改革の契機

② 図書館の改修=大学図書館としての機能的空間の創出

☆ラーニングコモンズ（2007年4月 開設）

☆キャリアカフェ（2007年12月 開設）

③ 教員・学生と 図書館職員との協働

3学部、1大学院研究科

・学部生：2,191名

・大学院生：1,042名

・教員：278名

（2011年5月現在）

【効果】

- 学生の関心の高まりと入館者数増加
- 学生のインターンシップ（図書、情報教育）
- 職員の自己啓発
- 学外評価が学内評価に反映

① 理念の作成

☆図書館職員と図書館長
とで作成 (2006年)

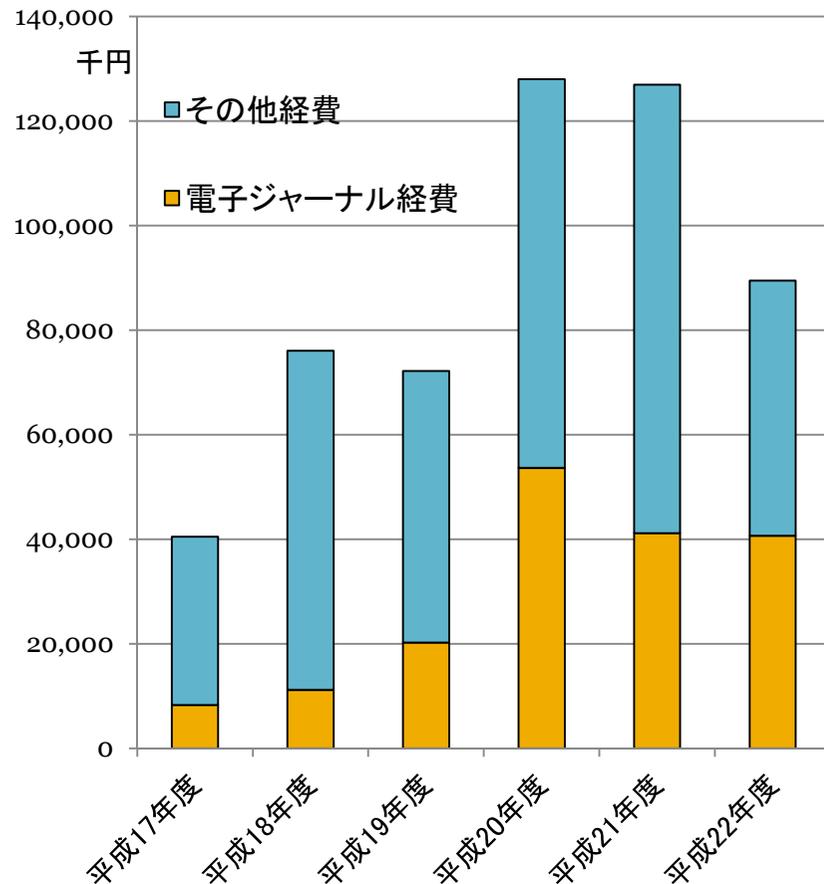


図書館入口に掲げられて
いる理念

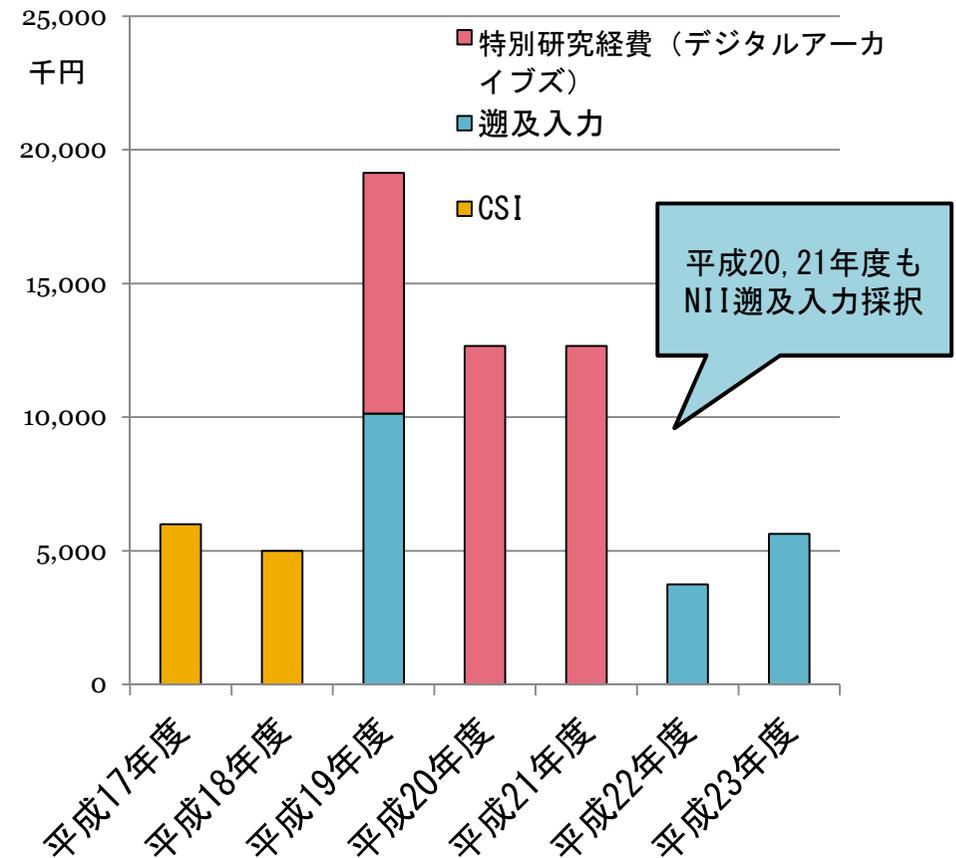
お茶の水女子大学附属図書館は、時間と空間を超える知的交流の場であり、次世代の知を創造し発信する学術情報基盤として機能する。

経費面の取組み

図書館経費（臨時的経費を含む）

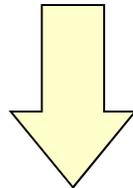


図書館が獲得した競争的経費



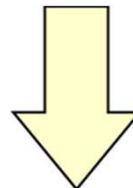
遡及入力 進捗状況

【2006年3月時点 全学蔵書数 600千冊】



- 平成18年度 図書館経費による遡及
- 平成19年度 NII遡及入力事業採択（大量遡及）

【2008年3月時点 全学蔵書数 612千冊】



- 平成20、21、22年度 NII遡及入力事業採択
- 学内経費による研究室所蔵図書の遡及

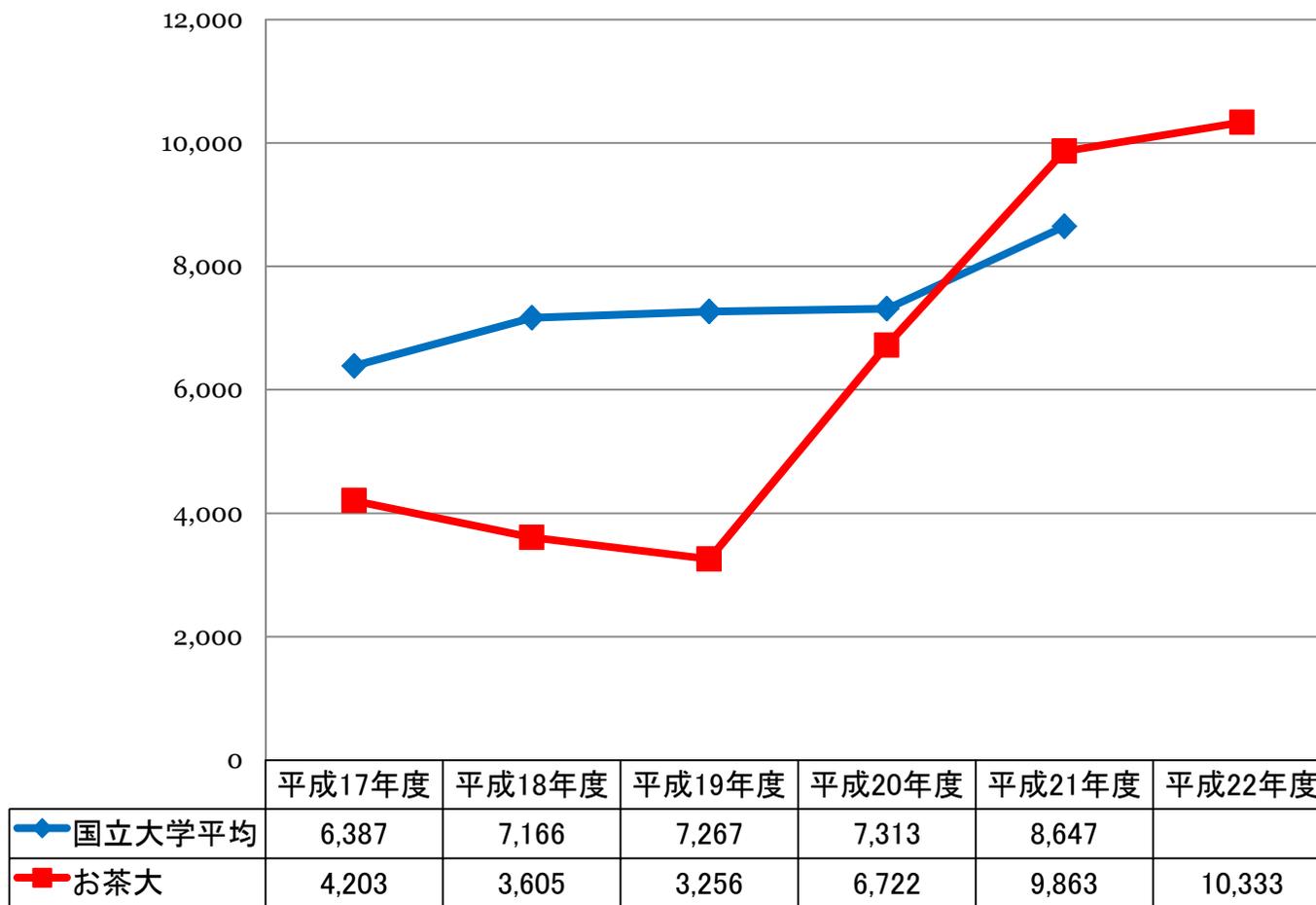
【2011年3月時点 全学蔵書数 640千冊】



- 平成23年度も NII遡及入力事業採択

電子ジャーナル

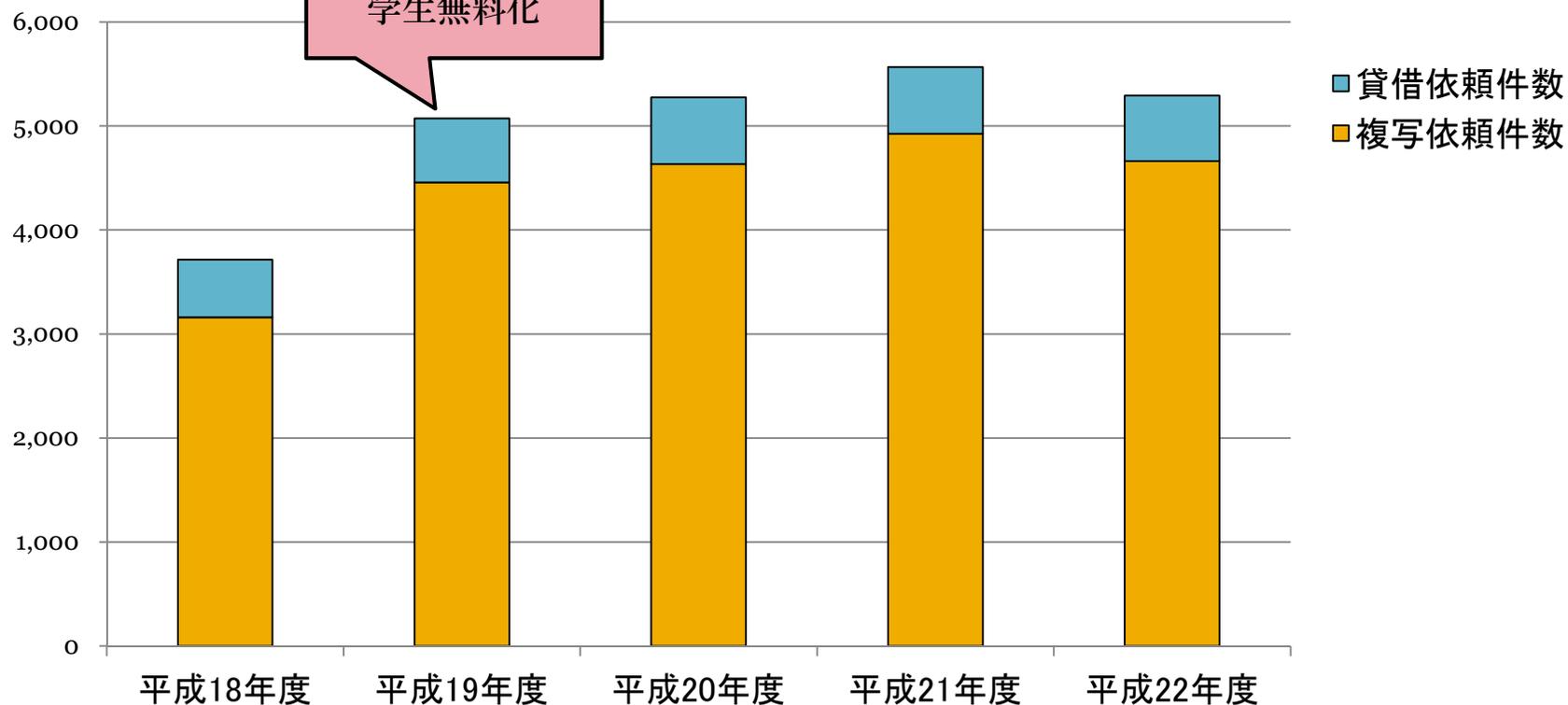
☆利用可能な電子ジャーナルタイトル数 (学術情報基盤実態調査)



学生 I L L 料金の無料化

平成19年10月から、
①学生への資料提供サービスの向上、
②現金取扱業務の軽減を目的に、学生（学部生、大学院生）が依頼する I L L 料金の無料化（大学負担）を実施。

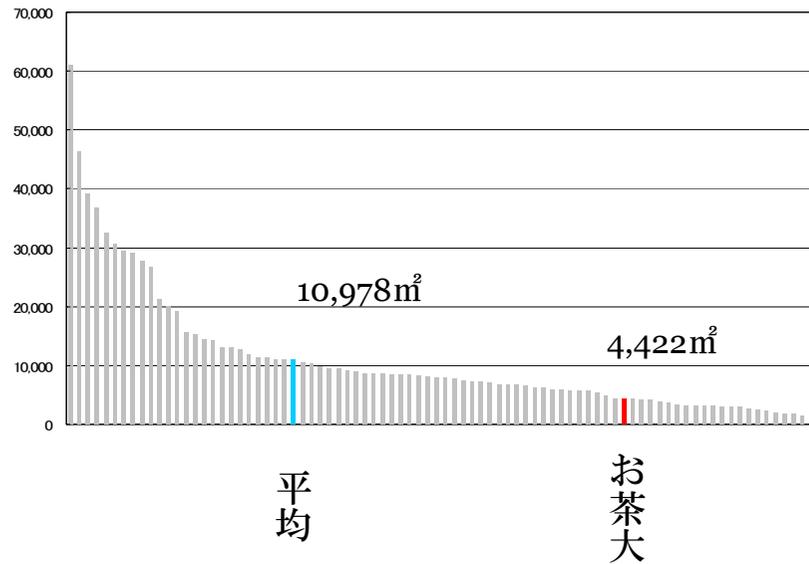
I L L 依頼件数



お茶大図書館の広さと資料費

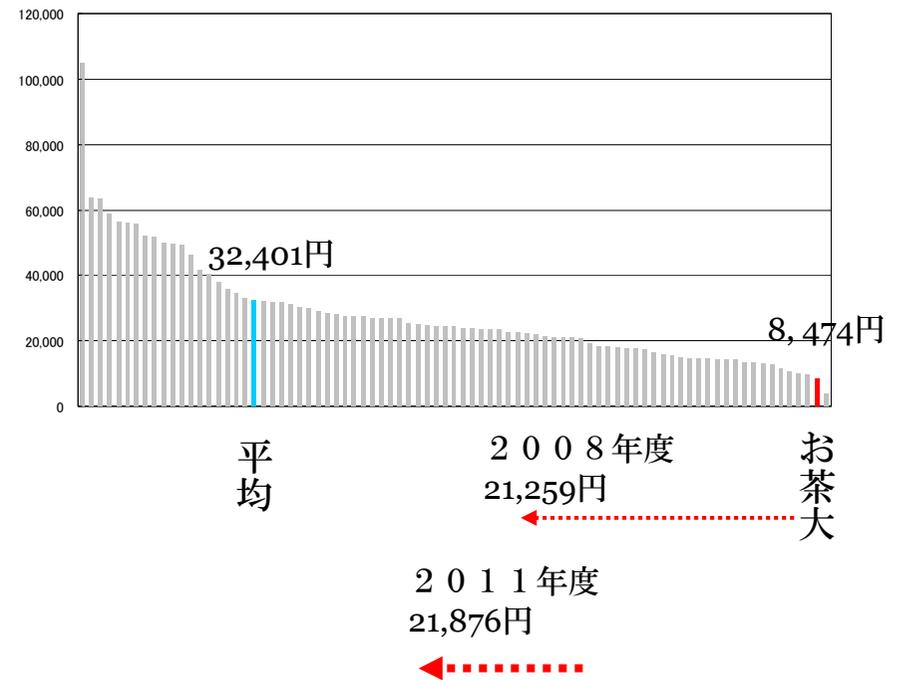
○国立大学法人附属図書館ランキング（日本の図書館 統計と名簿2007による）

建物総床面積（含む分館）m²



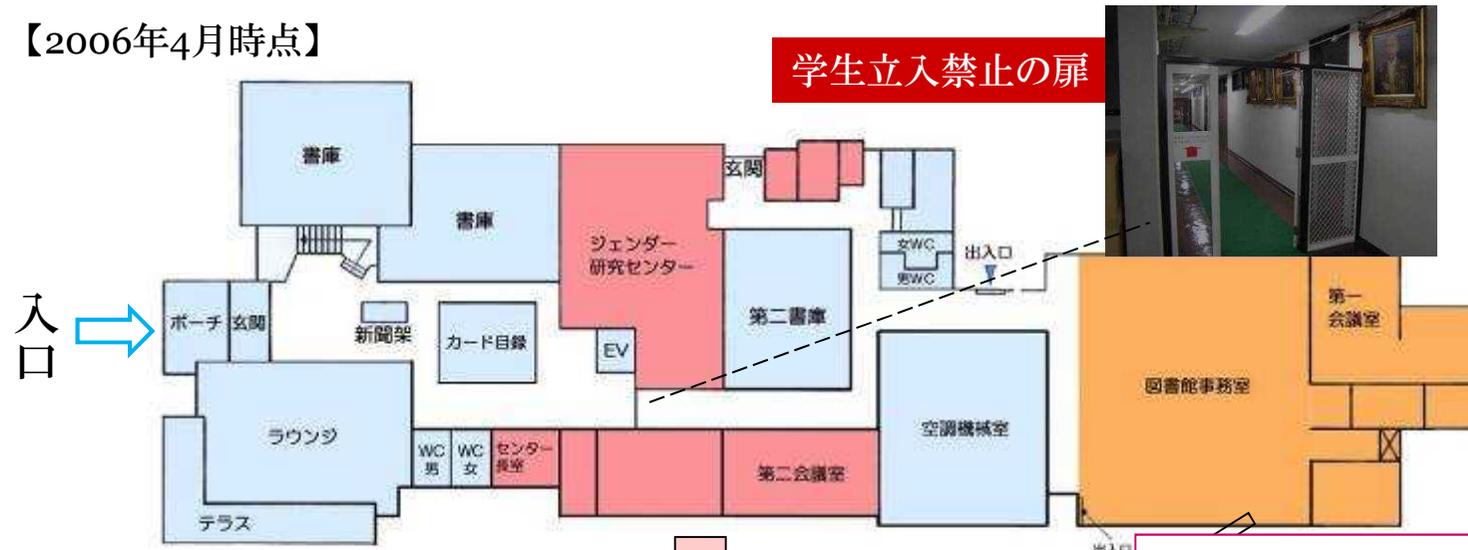
学生1人あたりの図書館資料費（円）

2006年度



② 図書館の改修＝機能的空間の創出

【2006年4月時点】



【2008年3月時点】



お茶大図書館施設面での改善

- 2007年 4月 ラーニング・commonsの設置
- 2007年 5月 事務室の移転
- 2007年11月 ラウンジのリニューアル
- 2007年12月 キャリアカフェオープン
- 2008年 2月 キャリアカフェ部分改装
- 2008年 3月 集密書架（13万冊収容可能）設置
- 2008年 3月 大学院生用研究スペースの設置
- 2009年 5月 オープン書庫の設置
- 2010年 2月 視聴覚コーナーのリニューアル
- 2010年 4月 利用者用トイレ改装

増改築なし、部分改装のみ

学生スペース	⇒	1.8倍
書庫スペース	⇒	1.8倍
事務スペース	⇒	26%減
館長室	⇒	33%減

ラーニング・コモンズの日常

授業・講習
会スペース

持ち込み
PC席



人気の
立ち席



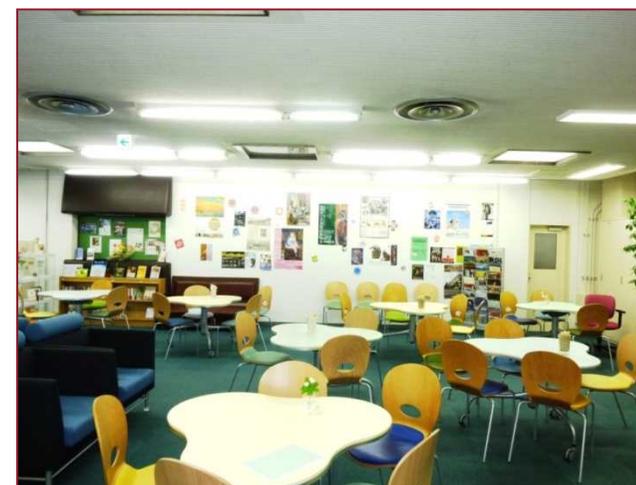
キャリアカフェの日常



無線LAN &
グループ学習



プレゼンテーション &
コミュニケーション



ラウンジの日常



クリスマス
コンサート

大きな机で
自習



③ 教員・学生との協働

LiSA(Library Student Assistant)

- LiSAは、学生と図書館スタッフの協働による図書館活性化のための活動
- 学生は、図書館業務経験を通じて、
 - ①キャリア意識形成
 - ②サポートされる側からサポートする側の視点変化



左、職員から作業内容の説明を受ける
右 活動報告ブログ <http://ochadailisa.blog32.fc2.com>

LiSAの業務風景



図書装備



データ入力

次々生まれるLiSA自主企画

見学

展示



書架整理

情報基盤センターとの連携

ラーニング・アドバイザー（T A）が常駐

- ・ラーニング・commons（約80台のP C）の管理
- ・ノートP C（40台）自動貸出ロッカーの設置と管理

待機中



出動中



キャリア支援センターとの連携 グローバル教育センターとの連携

- キャリアカフェでの活動



就職セミナー



留学相談



ハイチ大地震
被災者支援

【効果】

- 学生の関心と入館者数
 - 241,000人(平成20) → 263,000人(平成21) → 282,000人(平成23)
- 学生のインターンシップ ⇒ 「終了証」
 - 「LiSAの仕事は、働くということに対しての価値観や意識を変える大きなきっかけになりました」
 - 「LiSAの業務を通じて、自然と資料の探し方が身につきました」
 - 「参加する一人一人が自由に業務に対する視点を見つけて取組めるため、各々が自分にとって必要な学びや気づきを見つける機会となっている」
- 学外評価が学内評価に反映
- 職員の多様な自己啓発
 - 第11回図書館総合展／学術情報オープンサミット2009」のポスターセッションで最優秀賞を受賞

☆連携・協働
☆主体性・創造性を発揮

大学図書館の組織・運営体制の在り方

**各大学における戦略的な
位置付けの明確化**

学内外へのアピール

財政基盤の確立

戦略的で安定的な経費の確保策

**専任職員及び臨時職員の配置
並びに外部委託の在り方**

業務の中核部分は
専門的な能力を有する人材の配置



各大学図書館が、それぞれの特色を発揮し、
大学と社会と未来の知の基盤を構築できます
ように。

ご清聴ありがとうございました。

☆ 学術情報基盤作業部会主査
有川節夫九州大学総長に一部資料（※印）
の提供をいただきましたことを
感謝申し上げます。

